

伊達政宗公
誕生450年
シリーズ

第十回

政宗公の足跡を訪ねて

米沢編



初代仙台藩主として仙台のまちの礎を築いた政宗公は、山形県の米沢で生まれ、24歳まで本拠として過ごしました。ゆかりの城跡や神社など、米沢の地に残る政宗公の原点を訪ねました。

取材協力 米沢市教育委員会文化課



▲米沢城跡（松岬公園）内に建てられた「伊達政宗公誕生の地」の碑



▲成島八幡宮。現在の拝殿は、永徳3年（1383年）に伊達家8代当主・宗遠によって造営されたものです



政宗公、米沢に生まれる

永禄10年（1567年）8月3日、政宗公は米沢城で生まれました。父は伊達家16代当主の輝宗、母は山形城主最上義守の娘・義姫で、幼名は梵天丸（ぼんてんまる）といいました。傅役（教育係）の片倉小十郎景綱や、輝宗が米沢に招いた美濃の高僧・虎哉宗乙の下、政宗公は学識や教養を身に付けていきます。

天正12年（1584年）、18歳で家督を継いだ政宗公は、周囲の大名と戦いを繰り返す一方、しばしば米沢城近郊の館山などに出掛け、ホトトギスの声を聞いたたり、鷹狩りや川狩りに興じたりしていたといわれています。

伊達氏から上杉氏へー時代とともに様相を変えた館山城

米沢市の南西部にある館山城跡は、小樽川と大樽川が交わる丘陵地に築かれた天然の要害で、古くから伊達氏に関わる山城として知られています。伊達氏の正史「伊達治家記録」では、まず伊達氏家臣新田氏の居城として登場します。その後、伊達輝宗が自身の隠

居所として普請（城づくりのための土木工事）を行い、輝宗の死後には政宗公が要害等を再整備しました。このとき城域が最大になったと考えられています。



▲館山城跡。平成28年3月に国の史跡に指定されました

天正19年（1591年）、政宗公は豊臣秀吉の命により米沢から岩出山へと移りますが、その後米沢を本拠とした上杉氏が館山城の普請を行った形跡があります。館山城が伊達氏の時代から上杉氏の時代にわたって使用され、城の規模や役割は時代ごとに変化していったとみられます。

政宗公も崇拝した成島八幡宮

慶長5年（1600年）に仙台に移った政宗公は、仙台城の北西に大崎八幡宮を創建しました。この大崎八幡宮は、米沢の成島八幡宮と岩出山の大崎八幡神社を合祀したものです。

成島八幡宮は宝龜8年（777年）建立とされており、長井氏、伊達氏、上杉氏と代々の藩主に崇拝されてきました。政宗公が仙台の大崎八幡宮に分霊を行ったことから、米沢を本拠としていた時代に成島八幡宮を厚く崇拝していたことがうかがえます。

